

取組名		10年後に目指したい将来像	振り返りの総括
22	里山・自然の保全	<p>里山は、私たちの暮らしに様々な恵みと安らぎを与えるほか、多様な生物を育む場所でもある、人の働きかけを通じて形成されてきた山や川等をいいます。昔ながらの農村の営みによって形成されてきた、人と自然の共生による三田の「里山」が後世に受け継がれています。また、花と緑があふれる空間の形成や街路樹等の適正な管理等、市民参加型の『人と自然が共生する魅力あるまち』が実現しています。</p>	<p>前期計画期間では、里山林の間伐等保全と資源活用の取組、市民や事業者、専門機関等の多様な主体との連携による、特定外来生物の被害防止を含めた生物多様性保全に取り組んだ。中でも、皿池湿原の保全活動や啓発等の取組については、令和7年度に「日本自然保護大賞」を受賞し、全国的にも非常に優れた取組として認められるとともに、国から、生物多様性の保全が図られている区域として、「自然共生サイト」の認定を受けた。</p> <p>また、新たな植栽管理の取り組み(グリーン・マネジメントさんだ2.0)に基づき、市民・団体等の多様な参画による協働の植栽管理を進めるとともに緑量適正化に向けた街路樹更新の取り組みに着手した。</p> <p>成果指標では、「里山ボランティア延べ活動日数」、「地域の緑化団体による緑化箇所数」といった具体的な活動指標については、目標達成に向けて順調に推移しているが、一方で、「育成プログラム体験者を受入可能な保全ボランティア団体数」は進捗が遅れが生じており、市民や事業者の里山や生物多様性への関心を高め、保全活動等に参加する意欲の醸成を目指す部分については課題が残っているといえる。また、市民意識調査では、満足度は3.52ptで高い評価が得られているが、重要度は全施策の平均値をやや下回ることからも、市民等の関心不足が課題であると考えられる。</p> <p>後期計画では、里山や生物多様性等に関する情報発信、豊かな自然や花と緑があふれるまちの魅力発信を強化し、市民の理解促進や行動意識の醸成を図るとともに、施策の推進やボランティア団体等への支援を図る必要がある。加えて、間伐等里山林整備や登山道整備等を引き続き実施することにより、健全な里山環境が維持され、魅力と活気に溢れるとともに、人と野生動物の棲み分けができた里山となるよう、県とも連携しながら取り組みを進める。</p> <p>また、持続可能な花と緑の保全・活用を図るため、前期計画の取り組みを継続するとともに、マスタープランとなる「緑の基本計画」の改定により、さらなる多様な主体が参画できるしくみづくりを進める。</p>

市民意識調査の結果		指標等の進捗状況							
重要度	3.93	指標名		基準値(R2)	方向性	R4	R5	R6	目標R8
重要度平均からの偏差	-0.05	1	育成プログラム体験者を受入可能な保全ボランティア団体数	-	↑	0団体	0団体	4団体	10団体
重要度順位	16/25位	2	里山ボランティア延べ活動日数	250日	↑	222日	256日	304日	310日
満足度	3.52	3	公害等に関する苦情件数	119件	↓	165件	191件	119件	100件
満足度平均からの偏差	0.44	4	地域の緑化団体による緑化箇所数	108箇所	↑	114箇所	123箇所	123箇所	125箇所
満足度順位	2/25位	5	街区公園やポケットパーク等でのボランティア活動箇所数	68箇所(R3)	↑	76箇所	85箇所	85箇所	92箇所

《前期基本計画》

《後期基本計画(素案)》

「さと」の恵みを守り、活かすまち ～うるおいづくり～

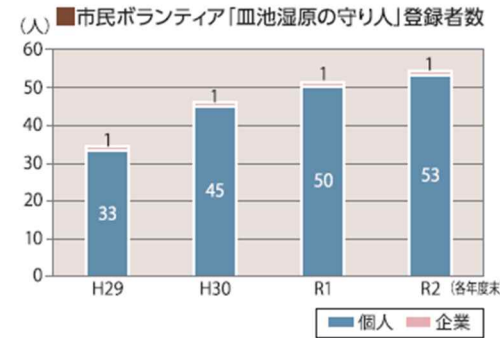
22 里山※・自然の保全



1. 10年後に目指したい将来像

里山は、私たちの暮らしに様々な恵みと安らぎを与えるほか、多様な生物を育む場所でもある、人の働きかけを通じて形成されてきた山や川等をいいます。昔ながらの農村の営みによって形成されてきた、人と自然の共生による三田の「里山」が後世に受け継がれています。また、花と緑があふれる空間の形成や街路樹等の適正な管理等、市民参加型の『人と自然が共生する魅力あるまち』が実現しています。

2. 10年後に心配される三田の状況		3. 10年後に目指したい三田の状況		取り組み
A	里山の保全活動や里山資源の活用が行われず、里山の環境が劣化・荒廃し、まちの魅力と活気が失われていること	→	専門的な機関や多様な主体とともに里山の多面的な機能を活かした取り組みが進められ、健全な里山環境が維持された魅力と活気に溢れた里山のあるまちとなっていること	①
B	市民全体の里山や生物多様性※保全への関心が低い、貴重な生態系と豊かな生物多様性が失われていること	→	貴重な生態系の活用、保全の取り組みが進むことで、市民全体の里山や生物多様性保全の関心が高まり、生物の多様性が確保されていること	②
C	子どもが自然の大切さを学ぶ機会を失い、自然環境を守る次世代の人材が輩出されず、保全活動が進まないため、里山が荒廃していること	→	自然環境を守る人材として活躍するために必要な質の高い教育環境が構築されることで、多様な生物が生息する里山の環境の保全に貢献する人が輩出されること	③
D	公害や悪臭・煙等により生活環境が悪化し、住民が悩まされる等の問題が生じていること	→	生活環境に影響を与えるような事象について、市民等の間において共通理解が進み、公害や悪臭・煙等苦情の発生が減少し、暮らしやすいまちになっていること	④
E	既成市街地の公園・緑地※面積が不足し、市民・事業者による多様な緑化空間が形成されていないこと	→	市民・事業者の緑化活動への積極的な参加のもと、既成市街地※の公園・緑地の整備や多様な緑化空間の形成が進み、花とみどりがあふれる街になっていること	⑤
F	街路樹の管理が滞り、景観面や安全面に支障をきたすなど、市民が安らぎを感じることができないこと	→	街路樹の持続可能な管理手法の導入や、市民・事業者との協働等により適正に管理され、市民が潤い、安らぎ、愛着を感じていること	⑥



※里山 11ページ参照

※生物多様性 41ページ参照

※公園・緑地

公園とは公衆の休養、保健、観賞等のために設けられた庭園または地域をいう。また、緑地とは草木のおい茂っている土地をいう。

※既成市街地 31ページ参照

※地球温暖化 33ページ参照

※SDGs 31ページ参照

※まちなか花ざかり事業

市道等公共空間に草花による緑化を市民参画により実施し、地域の活性化と公共空間の緑化を推進する取り組みをいう。

※グリーン・マネジメントさんだ2.0

市の魅力である緑豊かな景観を守りながら、緑の量の適正化を図るとともに、市民の参画と協働による持続可能な新たな植栽管理の取り組みをいう。

※緑化団体

都市緑化の推進と保全の一環として、地域住民が緑の育成と管理を継続的に行おうとする組織をいう。

「さと」の恵みを守り、活かすまち ～うるおいづくり～

【22】 里山・自然の保全

1 10年後に目指したい将来像

里山は、私たちの暮らしに様々な恵みと安らぎを与えるほか、多様な生物を育む場所でもある、人の働きかけを通じて形成されてきた山や川等をいいます。昔ながらの農村の営みによって形成されてきた、人と自然が共生し、野生動物との棲み分けができてきている三田の里山が後世に受け継がれています。また、魅力ある緑化空間の形成や街路樹等の適正な管理等、市民参加型の『人と自然が共生する魅力あるまち』が実現しています。

2 10年後に心配される三田の状況 3 10年後に目指したい三田の状況 取り組み

A	里山の保全活動や里山資源の活用が行われず、里山の環境が劣化・荒廃し、野生動物が市街地に頻りに侵入するなど、まちの魅力と活気が失われ、安全・安心な生活が脅かされていること	→	専門的な機関や多様な主体とともに里山の多面的な機能を活かした取り組みが進められ、健全な里山環境が維持された魅力と活気に溢れるとともに、人と野生動物の棲み分けができた里山のあるまちとなっていること	①
B	市民全体の里山や生物多様性保全への関心が低い、貴重な生態系と豊かな生物多様性が失われていること	→	貴重な生態系の活用、特定外来生物の防除を含め保全の取り組みが進むことで、市民全体の里山や生物多様性保全の関心が高まり、生物の多様性が確保されていること	②
C	子どもが自然の大切さを学ぶ機会を失い、自然環境を守る次世代の人材が輩出されず、保全活動が進まないため、里山が荒廃していること	→	自然環境を守る人材として活躍するために必要な質の高い教育環境が構築されることで、多様な生物が生息する里山の環境の保全に貢献する人が輩出されること	③
D	公害や悪臭・煙等により生活環境が悪化し、住民が悩まされる等の問題が生じていること	→	生活環境に影響を与えるような事象について、市民等の間において共通理解が進み、公害や悪臭・煙等苦情の発生が減少し、暮らしやすいまちになっていること	④
E	地域のつながり喪失による緑の空間の荒廃や公園の活気喪失により街の魅力が低下していること	→	市民・団体等、多様な参画により花とみどり豊かな緑の空間が形成されるとともに市民ニーズにマッチした公園運営により活気に満ちた魅力的な街となっていること	⑤
F	街路樹の管理が滞り、景観面や安全面に支障をきたすなど、市民が安らぎを感じることができないこと	→	街路樹の持続可能な管理手法の導入や、市民・事業者との協働等により適正に管理され、市民が潤い、安らぎ、愛着を感じていること	⑥

《前期基本計画》

《後期基本計画(素案)》

4. 取り組み

市民

- ◆環境学習や自然観察会に参加し、学びを活かした環境保全活動に取り組みます。
- ◆緑化活動への関心を高め、積極的に参加します。
- ◆自然を感じ、気持ちよく生活できる環境を守るための取り組みをします。
- ◆身近な緑である街路樹について、関心を高めるとともに、軽易な維持管理等に協力します。

事業者・団体等

- ◆里山の保全活動に取り組みます。
- ◆里山整備を通じて里山資源の活用に取り組みます。
- ◆事業所敷地内での緑化に取り組むとともに、緑化活動に積極的に参加します。
- ◆環境美化に努めるとともに、従業員の環境意識を高めます。
- ◆身近な緑である街路樹について、関心を高めるとともに、軽易な維持管理等に協力します。

市

①里山が息づくまちづくり

豊かな里山は、バイオマスエネルギーやCO<sub>2</sub>の森林吸収源として地球温暖化<sup>※</sup>防止に寄与するなど、多面的な機能があります。これら里山を人と自然の博物館等の専門機関や多様な主体とともに、北摂里山博物館構想による広域的な連携や森林環境譲与税も活用しながら保全活用する取り組みを進めます。

②自然の豊かさを象徴する生物多様性の保全

市内の生物多様性の状況について継続的に調査を行い、生物多様性地域戦略を策定します。市民、事業者、人と自然の博物館等専門的な機関と連携して取り組み、SDGs<sup>※</sup>の目標でもある生態系や生物多様性の保全を図ります。

③里山の未来を支える人材育成

人と自然の博物館や有馬富士自然学習センター、小中学校等と連携し、里山管理や自然に関する質の高い学習プログラムを実施するとともに、学びを社会に還元し活躍できる場を充実し、里山の魅力を発信していきます。里山は完全な自然ではなく、人の手で育まれてきた歴史を伝え次世代へ引き継ぐ人材を育成します。

④里山と生活の調和を図る住民の相互理解

農地の保全は、自然豊かな里山環境を守るうえで大切である事を市民が共通理解し、農地保全における農業に伴う野外焼却については、生活環境と農業振興の調和を図るため、市民相互理解の啓発を行います。さらに、生活環境を脅かす多種多様な苦情に対して適切に対応し、人が暮らしやすい里山をはじめとする自然や生活環境を守ります。

⑤市民との協働による花と緑があふれるまち

既成市街地において、公園等の整備・保全を進めます。市民との協働により市道等公共空間への草花による緑化を推進するまちなか花ざかり事業<sup>※</sup>の拡充を図るとともに、市民団体等が継続的な緑化活動が維持できるように人材育成も含めた支援体制の充実を図り、花と緑があふれるまち三田を目指します。

⑥山並みと調和し一体的な景観を形成する街路樹の適正管理

身近な緑である街路樹については、新たな植栽管理の取り組み(グリーン・マネジメントさんだ2.0<sup>※</sup>)を進め、市民・事業者の参画と協働の更なる拡大や交通の安全、良好な道路景観の維持に必要な緑の総量の適正化等、持続可能な植栽管理を図ります。

5. 成果指標等

指標名	基準値	基準年	目標値(R8)
育成プログラム体験者を受入可能な保全ボランティア団体数	—	—	10団体
里山ボランティア延べ活動日数	250日	(R2)	310日
公害等に関する苦情件数	119件	(R2)	100件
地域の緑化団体 <sup>※</sup> による緑化箇所数	108箇所	(R2)	125箇所
街区公園やポケットパーク等でのボランティア活動箇所数	68箇所	(R3)	92箇所

■主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市環境基本条例、三田市里山と共生するまちづくり条例、三田市有馬富士自然学習センターの設置及び管理に関する条例
関連計画	三田市環境基本計画、三田市里山の保全と活用に関する行動計画、三田市緑の基本計画

4 取り組み

市民

- ◆環境学習や自然観察会に参加し、学びを活かした環境保全活動に取り組みます。
- ◆緑化活動への関心を高め、積極的に参加・協力します。
- ◆自然を感じ、気持ちよく生活できる環境を守るための取り組みをします。
- ◆身近な緑である街路樹について、関心を高めるとともに、軽易な維持管理等に協力します。

事業者・団体等

- ◆里山の保全活動に取り組みます。
- ◆里山整備を通じて里山資源の活用に取り組みます。
- ◆事業所敷地内での緑化に取り組むとともに、緑化活動に積極的に参加・協力します。
- ◆環境美化に努めるとともに、**公害防止の観点から事業に伴う近隣への環境影響について自己点検を行うなど従業員の環境意識を高めます。**
- ◆身近な緑である街路樹について、関心を高めるとともに、軽易な維持管理等に協力します。

市

① 里山が息づくまちづくり

豊かな里山は、バイオマスエネルギーやCO<sub>2</sub>の森林吸収源として**ゼロカーボンシティの実現に寄与するなど**、多面的な機能があります。これら里山を人と自然の博物館等の専門機関や多様な主体とともに、北摂里山博物館構想による広域的な連携や森林環境譲与税も活用しながら、**木と竹の駅プロジェクトなど保全活用する取り組みを進めます。**子どもから高齢者までアウトドアレクリエーションが楽しめる場である登山道の整備を進め、三田の自然の魅力を発信することにより、市民の利用や観光客、移住者の増加につなげます。県と連携して里山林の間伐等整備を進め、人の生活圏と野生動物の生息地の境界となる空間を設けることにより、安全・安心な生活の確保を図ります。

② 自然の豊かさを象徴する生物多様性の保全

血池湿原をはじめ、三田の自然の豊かさを有するエリアにおけるボランティア団体等の保全活動の活性化と市民の関心の醸成に向けて、活動の支援や情報発信に取り組みます。人と自然の博物館等専門機関、県、市民及び事業者・団体等と連携し、**特定外来生物による被害を防止する取り組みを進め、生態系や生物多様性の保全を図ります。**

③ 里山の未来を支える人材育成

人と自然の博物館や有馬富士自然学習センター、小中学校等と連携し、里山管理や自然に関する質の高い学習プログラムを実施するとともに、学びを社会に還元し活躍できる場を充実し、里山の魅力をSNS等を活用し発信していきます。里山は完全な自然ではなく、人の手で育まれてきた**大切な財産であるという歴史を伝えていくとともに、次世代へ引き継ぐため環境学習・活動体験プログラムの充実を図ることで、ボランティア等の人材育成を推進します。**

④里山と生活の調和を図る住民の相互理解

農地の保全は自然豊かな里山環境を守るうえで大切である事を市民が共通理解し、農地保全における農業に伴う野外焼却については生活環境と農業振興の調和を図るため、市民相互理解の啓発を行います。さらに、生活環境を脅かす多種多様な苦情に対して適切に対応し、人が暮らしやすい里山をはじめとする自然や生活環境を守ります。

⑤市民協働・民間活力活用による緑化空間のマネジメント **★人口減少対策★**

緑の基本計画を核として、市民との協働、民間活力の活用により、緑化空間の適正な維持をマネジメントするとともに市民ニーズに寄り添う公園運営により緑が美しい活気に満ちた魅力あるまちづくりを目指します。

⑥山並みと調和し一体的な景観を形成する街路樹の適正管理

街路樹は量の適正化による質の向上への管理方針の下、市民理解の醸成を図りつつ適正にマネジメントを進めます。交通安全の確保と山並みに映える美しい道路景観を両立させるとともに、市民、事業者・団体等との協働・共創により持続可能なグリーンインフラマネジメントを進めます。

◆評価指標

指標名	現状値(基準年)	目標値(R13)
<b>KGI 施策重要度・満足度(市民意識調査)</b>	<b>重要度 3.93pt 満足度 3.52pt</b>	<b>↑</b>
<b>KPI 市やボランティア団体による里山林整備面積</b>	<b>1.2ヘクタール(R7)</b>	<b>3.9ヘクタール</b>
<b>KPI 自然共生サイト認定箇所数</b>	<b>1箇所(R7)</b>	<b>3箇所</b>
<b>KPI 公害等に関する苦情件数</b>	<b>119件(R6)</b>	<b>50件</b>
<b>KPI グリーン環境を育む活動箇所数</b>	<b>208箇所(R6)</b>	<b>217箇所</b>

◆主要な条例・規則及び関連計画

条例・規則	三田市環境基本条例、三田市里山と共生するまちづくり条例、三田市有馬富士自然学習センターの設置及び管理に関する条例
関連計画	三田市環境基本計画、三田市里山の保全と活用に関する行動計画、さんだ生物多様性保全計画、三田市緑の基本計画

市民の幸せ実感度の向上

	KGI (成果指標)	KPI (活動指標・取組指標)		現状値	目標値 (R13)	指標の設定理由	所管課
2 2 里山・自然の保全	(主観的指標) 施策重要度・施策満足度	-	新規	重要度 3.93pt 満足度 3.52pt	向上	全施策固定指標	-
		市やボランティア団体による 里山林整備面積	新規	1.2ヘクタール(R7)	3.9ヘクタール	<ul style="list-style-type: none"> <li>・里山林に人の手が入らなくなっている→倒木被害や土砂災害等の発生リスクが高まる→里山林整備を推進することで、安全、安心で快適な生活環境や良好な景観、生物多様性並びにゼロカーボン等自然環境の保全につながる→KGI施策満足度向上につながる</li> <li>・里山林に人の手が入らなくなっている→集落と里山林の境目があいまいとなる→サルやシカ等野生動物が山から集落や市街地に出ることを誘発したり、里山林で熊と遭遇するリスクが生じる→人的被害が生じるリスクが高まる→里山林整備を推進し、緩衝帯を設けることで、野生動物の集落等での出没が抑制される→目指すべき姿「人と自然が共生し、野生動物との棲み分けができている里山」実現につながる</li> </ul>	里山保全課
		自然共生サイト認定箇所数	新規	1箇所(R7)	3箇所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生物多様性の損失を止め、人と自然の結びつきを取り戻すための世界及び国の目標「2030年(令和12年)までに陸と海の30%以上を健全な生態系として効果的に保全する「30by30(サーティ・バイ・サーティ)」の達成に向け、本市においても、市民や事業者、市等による保全地が自然共生サイトに認定されるよう取り組みを進めることが重要であるため設定する。</li> <li>・自然共生サイト認定箇所を増やすことは、シビックプライドの醸成やシティセールスに寄与し、KGI施策満足度向上につながる。</li> </ul>	里山保全課
		公害等に関する苦情件数	継続	119件 (R6)	50件	公害等に関する苦情件数が減少することは、里山・自然が良好に保全されている判断材料となるため、指標として設定する。	環境政策課
		グリーン環境を育む活動箇所数	継続	208箇所(R6)	217箇所	地域団体数の維持・増加は、緑化空間の適正な維持と市民ニーズに寄り添う公園運営等が進み、市民が緑の守り手として主体的に活動することで、適正かつ持続可能な緑化空間が実現し、活気に満ちた魅力的な街となるため。	管理課